

能楽

ユネスコによる
人類の無形文化遺産「能楽」



能喜多流「枕蓑童」
友枝 昭世

平成29年7月21日(金)
開場/午後1時 開演/午後2時
会場 国立能楽堂
主催/公益社団法人能楽協会 東京支部

能親世流「安宅」
勅使 観世 清和

【チケット料金】(税込) 全席指定

- ◆ S席・・・10,000円
- ◆ A席・・・8,000円
- ◆ B席・・・6,000円
- ◆ C席・・・5,000円
- ◆ D席・・・4,000円 (普及席)

※各座席区分は前ページ座席表をご参照下さい。
※本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。

【チケット発売開始日】

4月21日(金) 午前10時より

【チケット取り扱い】

※販売は下記に限り承ります。

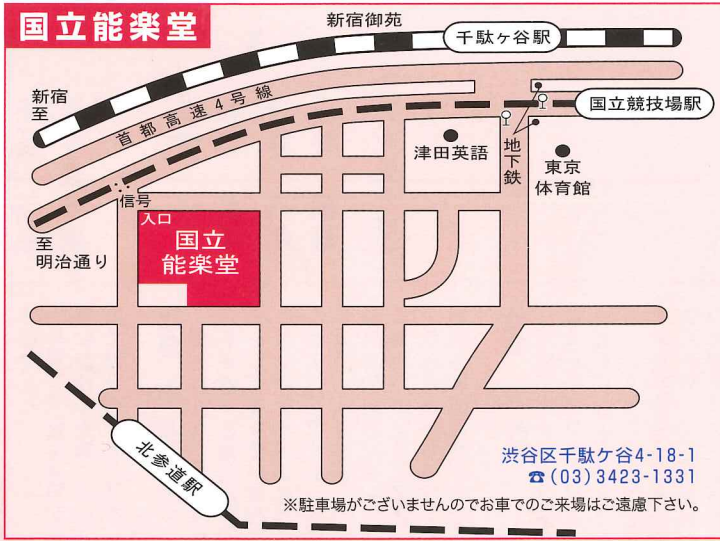
- ◆ 電話
チケットスペース ▶ 03-3234-9999 (有人対応)
- ◆ インターネット
eプラス ▶ <http://eplus.jp/> (PC・携帯共通)
- ◆ 店頭
国立能楽堂 ▶ 窓口販売
eプラス ▶ ファミリーマート全国各店舗 店内 famiポート

【前売チケット発売期間】 4月21日(金)～7月18日(火)

- チケットスペースのみ7月17日(月)に終了致します。
- 前売チケットは販売期間終了前に完売することもございます。予めご了承下さい。

【当日券】 国立能楽堂ロビー受付にて 午後1時より 販売開始

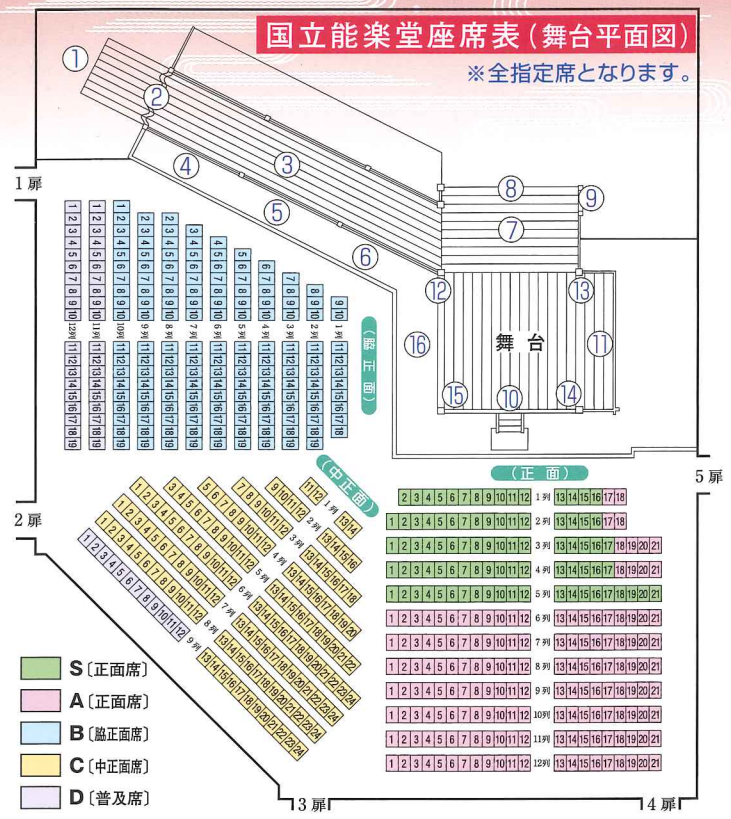
○残席がある場合のみ販売致します。



【最寄駅】 JR(中央・総武線)千駄ヶ谷駅下車……………徒歩5分
都営地下鉄(大江戸線)国立競技場駅下車……………徒歩5分
東京メトロ副都心線 北参道駅下車……………徒歩7分

◆公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <http://www.nohgaku.or.jp/>

国立能楽堂座席表(舞台平面図)



- S(正面席)
- A(正面席)
- B(脇正面席)
- C(中正面席)
- D(普及席)

■ 舞台平面図

- | | | | |
|------|---------|------|------|
| ①鏡の間 | ②揚幕 | ③橋掛り | ④三の松 |
| ⑤二の松 | ⑥一の松 | ⑦後座 | ⑧鏡板 |
| ⑨切戸口 | ⑩階(ぎざし) | ⑪地謡座 | ⑫シテ柱 |
| ⑬笛柱 | ⑭ワキ柱 | ⑮目付柱 | ⑯白州 |

能楽堂とは
能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間(約6m四方の本舞台)を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた鏡板をもち、左側に長さ四間ほどの橋掛りを備えた独特な形をしています。
この能舞台は元々屋外にあり、野天の白州や対面する建物が客席になっていましたが、明治以降、屋根付きの舞台と付随する楽屋、客席ごと建物に収容され、能楽堂と呼ばれるようになりました。
昔ながらの屋外舞台も全国に数十カ所現存しています。



番組

御挨拶 朝倉 俊樹
三二講座 馬野 正基

能 (喜多流)

シテ (慈童) 友枝 昭世

枕慈童

ワキ (勅使) 殿田 謙吉

ワキツレ (從臣) 大日方 寛

ワキツレ (從臣) 梅村 昌功

後見

香川 靖嗣
中村 邦生

地謡

谷 友矩 友枝 雄人
粟谷 充雄 粟谷 明生
内田 成信 粟谷 能夫
粟谷 浩之 長島 茂

〈開演 午後二時〉

能 枕慈童

魏の文帝に仕える大臣が中国の酈泉山の麓に薬水の水源があるので、その水上を見て参れと宣言を受け山へ入ります。すると山奥に一軒の庵があり、中から美しい慈童が現れます。勅使も慈童もお互いに山奥にいることが不思議なので化生の者と怪しむのですが、慈童は周の時代の穆王に仕えていたと名乗ります。しかし周の時代は既に数代前の話で七〇〇年も前であることに勅使はさらに怪しみます。そこで慈童は皇帝から賜った枕があるといつて見せます。実は皇帝の枕をまたいでしまった罪でこの山に流されてしまったのだが、皇帝の恵で枕に法華経の妙文を記したものであり、菊の葉にうつして流れに浮かべると葉から滴るしずくが不老不死の薬となり、それによって自分が七〇〇年も生き延びていと話し慈童は勅使の前で舞を舞い、菊水を勅使に捧げ、そのまま庵に戻っていきました。

狂言 文荷

主人は太郎冠者と次郎冠者の二人の家来を呼び出し、思いを寄せる千満殿という小人(少年)に宛てた文を届けるように言いつけます。奥方に叱られると言つても主人は聞き入れないので、しぶしぶ出かけた二人は文を互いに押し付け合います。そのうちに二人して持つ方法を思いつきますが、余りに重い文だと不審がり、中身を盗み読んでしまします。

文

狂言 (和泉流)

荷 シテ (太郎冠者) 野村 万作

アド (主) 石田 幸雄
アド (次郎冠者) 深田 博治

後見 中村 修一

休憩 二十分

〈三時五十五分頃〉

仕舞 (宝生流)

嵐山 宝生 和英

地謡

大友 順
武田 孝史
高橋 亘
小倉伸二郎

仕舞 (金剛流)

半 葩 金剛 永謹

地謡

工藤 寛
山田 純夫
宇高 通成
坂本立津朗

仕舞 (金春流)

天 鼓 金春 安明

地謡

山中 一馬
本田 光洋
辻井 八郎
山井 綱雄

〈四時十五分頃〉

能 (観世流)

子方 (義経) 武田 章志

ツレ (同山) 武田 友志

ツレ (同山) 坂口 貴信

ツレ (同山) 浅見 重好

ツレ (同山) 藤波 重彦

仕舞 嵐山

大和の国吉野から都の西、嵐山に移植した桜の様子を見てくるようにとの勅命を受けた帝の臣下は、そこで花守の老夫婦に出会います。老夫婦は木守の神、勝手の手により桜が美しく咲くと語り、自分達こそがその化身であると語り、姿を消します。

仕舞 半葩

夏の終わり、都紫野雲林院で花を供養する僧の前に、夕顔の花を立てる女性が現れ五条辺りにおいでなさいと言つて姿を消します。仕舞は、その後、能の後半の中心的場面、光源氏と夕顔の君が垣根の花を仲立ちとして出会い、契りを結んだことが、夕顔の立場から喜びをもつて回想的写実的に描かれます。

仕舞 天鼓

所は中国、天より鼓が降り体内に入る夢を見た夫婦に生まれた子天鼓は、妙音を奏でる鼓を愛するあまり帝の命令を拒み、呂水に